

2. 第四紀断層	要 点	備 考
<p>2.5 地質踏査結果 (一次調査の2) 2.5.8 馬場断層のつづき (5) 詳細調査結果のつづき</p>	<p>4) 火山ガラス分析結果 馬場断層が出現している露頭において、馬場断層により変位されていない被覆層（崖錐性堆積物）について火山ガラス分析を実施した。被覆層は以下の3層に区分される。</p> <p>第1層：第1層は第2層の上位に厚さ3m程度で分布する。火山ガラスを含む。 第2層：第2層は第3層の上位に厚さ2m程度で分布する。火山ガラスは含まない。 第3層：第3層は馬場断層の直上に厚さ3m程度で分布する。火山ガラスは含まない。植物片や種子を含む。</p> <p>第1層の一定深度で検出された火山ガラスをEDX分析、VAISで同定した結果、火山灰はアカホヤ火山灰（降灰時期約6,300年前）と始良火山灰（降灰時期約22,000年前）が検出された。なお、アカホヤ火山灰および始良火山灰が検出された同深度において微量ではあるが神崎川の深度95m、鳴尾沖の深度75mに分布する火山灰（降灰時期約8万年前）と泉大津市小津島の深度40mに分布する火山灰（降灰時期約10万年前）が検出されたが、これらの火山灰は地層の堆積時に混入したものと考えられる。以上の結果から第1層は2.2万年前以降に堆積した地層である。 第2層、第3層については、火山ガラスが含まれていないため堆積年代の同定はできないが、第1層が堆積した時代である2.2万年前より古い時代に堆積したものであると推定される。 以上より、第1層から第3層は馬場断層により変位されていないため、馬場断層の最終活動時期は少なくとも2.2万年前よりも古いものと考えられる。</p>	<p>図-2.5.8.2 火山ガラス分析採取地点露頭模式図 図-2.5.8.3 火山ガラス分析採取地点概念柱状図 写真-2.5.8.1 火山ガラス分析採取地点全景</p>

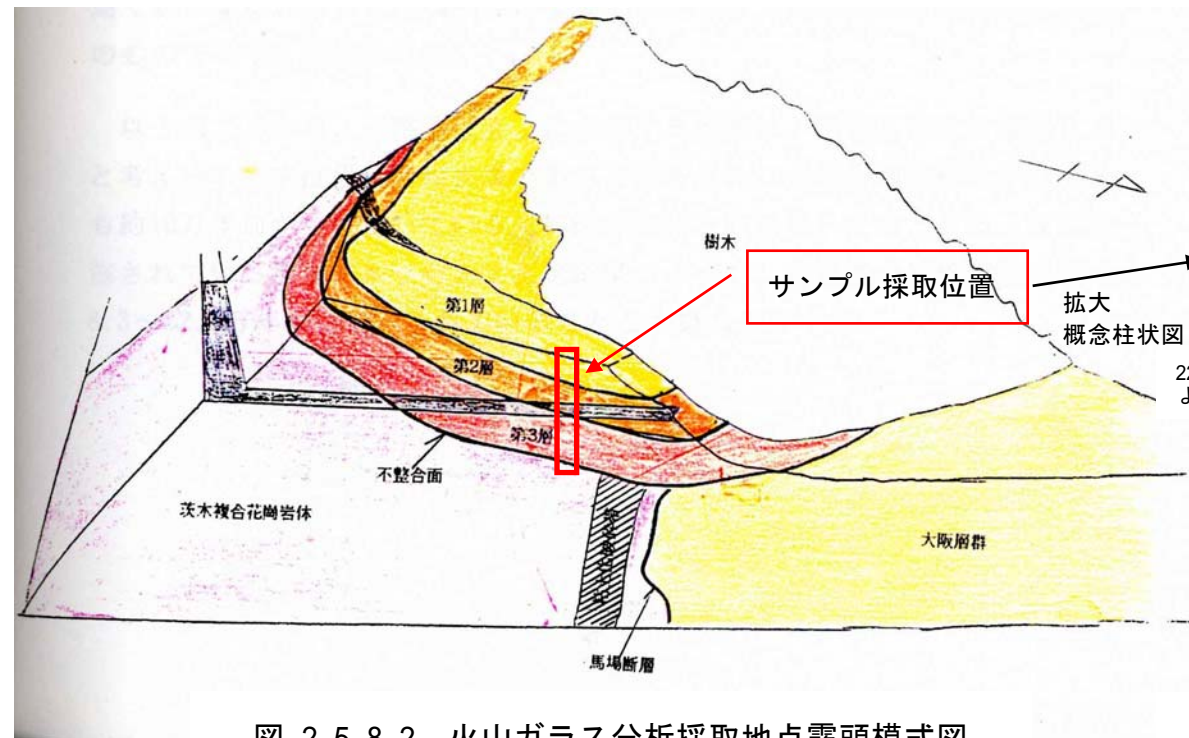


図-2.5.8.2 火山ガラス分析採取地点露頭模式図

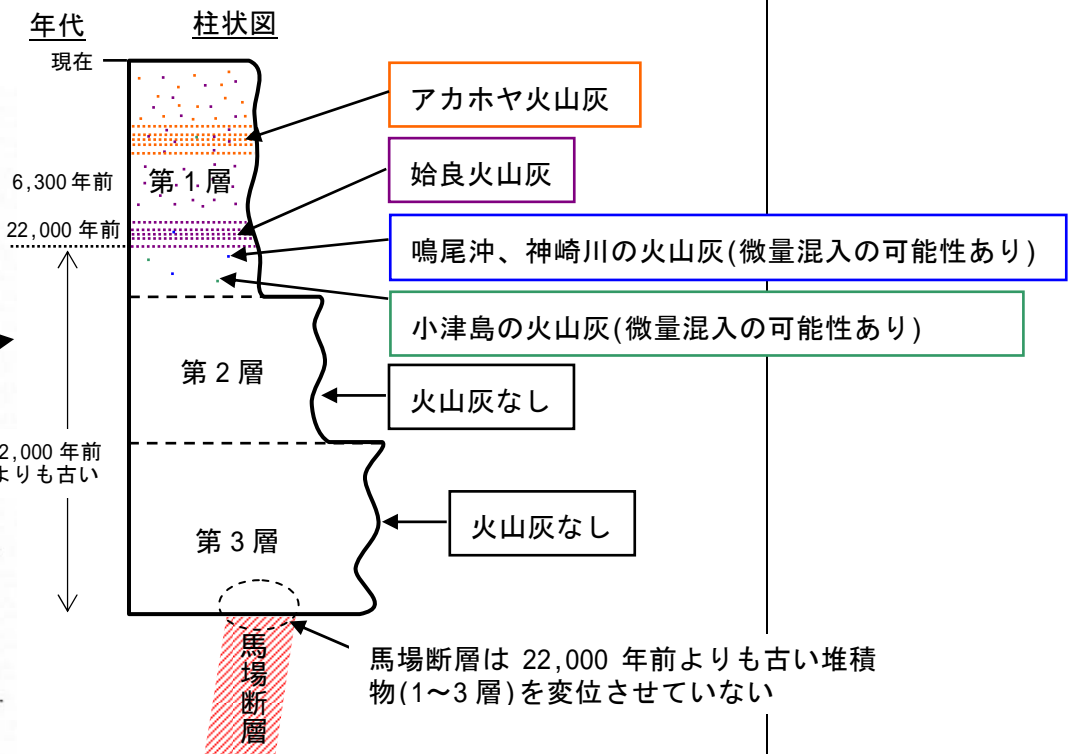


図-2.5.8.3 火山ガラス分析採取地点概念柱状図